

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 東濃高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和4年11月28日(月) 13:30~15:30
- 3 開催場所 東濃高等学校ガイダンス室
- 4 参加者

会長	寺本 公行	御嵩町副町長	
副会長	井口 和広	PTA会長	
委員	各務 眞弓	可児市国際交流協会・フレビア事務局長	
	田中 妙子	会社経営・税理士	
	山田 泰平	東海化学工業(株) 業務部人事・総括課長	
	渡邊 剛	地域代表	
	北野 雅也	PTA副会長	
	吉田 有希	PTA副会長	
	瀧瀬 江美	PTA書記	
	稲垣 眞智子	PTA会計	
	学校側	吉田 益穂	校長
		田中 誠二	教頭
	野田 潤哉	教頭	
	大坪 篤	事務長	
	服部 一也	教務主任・アドバンス部長	
	大宮 学	進路指導主事	
	前田 知美	生徒指導主事	
	佐合 ゆかり	3年学年主任	
	加藤 大輔	2年学年主任	
	永井 靖也	1年学年主任	

5 会議の概要(報告・協議事項)

(1) 各学年の状況報告

- ・各学年主任から学年の状況を報告した。

(2) 学校評価アンケート結果(生徒・保護者)についての概要説明及び領域ごとの分析

- ・教頭が、アンケートの概要を説明した。
- ・教務、進路指導、生徒指導の各領域について、教務主任、進路指導主事、生徒指導主事がそれぞれ分析を含めて説明した。
- ・委員からの意見と質問

意見1：県のPTAフォーラムでも防災教育が不足がちであるとの指摘があった。本校での取り組みはどうか。

⇒ 命を守る訓練を年3回実施しており、時間帯や想定状況を変えて訓練や講話を行っている。また、御高町との連携で防災士を養成する講座（1単位）を設けているが、各自治体が受講費用の助成を防災士資格取得を条件としているため、今年度は関心は持つものの受講に至る生徒はいなかった。

意見2：「体罰がない」という項目において、生徒の否定群が13%いる。言葉や指導の在り方など体罰に関わる教職員と生徒の認識のギャップを埋めて、数値を下げるのが望ましい。

⇒ 暴力は決して認められるものではない。生徒の意見を各種調査で吸い上げ注視するとともに、教職員の人権感覚を高める研修を推進する。

意見3：生徒の頑張りを映すものとして部活動がある。活発な部活動を教えてもらいたい。

⇒ バスケットボール部は、一昨年県ベスト16に駒を進めた。その後、後輩がその志を継いでいる。ロボコン部は、今年度は中部地区大会7位となり全国大会に進めなかったがよく頑張っている。野球部は、他校と連合チームを編成し、秋の大会で1回戦を勝利した。連合チームが勝利することは、県内初の快挙であった。

意見4：2年生の「わからない」という回答が多い点は気になる。

⇒ スクールポリシーや働き方などについては、正直な回答であったのかもしれない。それなりの理由があるのかもしれないが、日常の学年団の指導は熱心であるし、生徒との関係性に問題はないと考えている。実際、否定群の割合では、学年間に大きな差異は認められない。

意見5：「高校生らしい」とはどういうことだと考えているか。

⇒ 1学年：あ・じ・み（挨拶・時間・身なり）を基礎力として身につける。

⇒ 2学年：進路実現に向かって前向きに取り組む。その中で守るべきことは守る。

⇒ 3学年：自分で考えて行動できる。

⇒（委員より）話していただいたような思いを生徒に伝えてもらいたい。

⇒ 高校では社会に通用する力を付けることが求められる。「高校生らしさ」も当然そこに依るところがある。高校は社会に出る前の最後の叱られる機会でもあり、しっかりと通用する人間になるよう伝えていく。

(3) その他

- ・第3回協議会を1月18日に地域づくり類型の学習報告会に合わせて実施する。

6 会議のまとめ

第2回学校運営協議会において、令和4年度の学校評価アンケート結果に関して委員から意見や質問が出された。内容は防災や体罰への取り組みなど危機管理に係わることから、部活動、教育方針まで広範に及んだ。生徒や保護者による学校評価に対する委員からの意見によって、本校の成果と課題を確認できた。